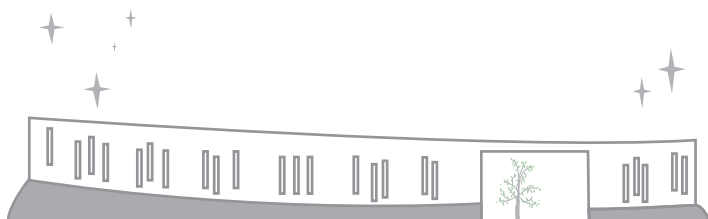


# 今月の展示 PickUp!

→>> こんげつの てんじ びっくあつぷ



2013年10月号

今月のテーマは、  
「隕石 (いんせき)」  
です。



今月は「隕石」を紹介するよ!  
紹介してくれるのは、小島秀康 (こじま ひでやす) さんです。

「南極・北極科学館になぜ隕石があるの?」と思う方もいらっしゃると思います。隕石は、地球のどの場所にもまんべんなく落ちてくる可能性があるのですが、南極はほとんどが雪と氷に覆われていて、隕石が落ちていと目立つため、探しやすいのです。もちろん、南極にもとからある岩石が落ちていることもありますが、隕石の場合は、大気圏を通過して落ちてくる時に摩擦でこげていることが多いので、地球の岩石と区別する目安になります。また、南極には、隕石が氷の流れのつて集まってくるところがあるのです。

地球を含めて、太陽系は約46億年前に出来たと言われています。地球の岩石は、火山の活動や風雨等によって絶えず形を変えてしまい、ほとんどはもとの姿や成分を失ってしまいました。しかし、隕石は46億年前の姿のままの事が多いので、隕石を研究すると、太陽系が最初はどうだったのか、どうやって出来たのかを知る手がかりになるのです。



小島さんはどんなお仕事をされているのですか?

南極に行って隕石をさがしていました。国内では、南極から持ち帰った隕石がどんな種類なのかを調べたり、46億年前にどのようにして隕石ができたかの研究を行っています。これまでに南極観測隊には5回参加しています。